

1 取組名称

国際理解を養うための「比較文化」教育プログラム

2 取組組織等

都市教養学部人文・社会系（国際文化コース）

3 取組実施代表者名

都市教養学部人文・社会系国際文化コース 准教授 西山 雄二

4 取組年度期間

平成27年度

5 取組の概要

現在、人文・社会系では教育の共通プラットフォームを構築し、国際化に対応した学生の教育環境を整備するべくプログラムの開発が進められている。こうした取り組みをさらに発展させるため、国際文化コースの文学系の欧米文化論（フランス語圏文化論、ドイツ語圏文化論、英語圏文化論）、日本・中国文化論分野（日本文化論、中国文化論）の5分野が共同し、学生が国際理解を養うための「比較文化」教育プログラムを実施する。具体的には、招聘する海外研究者によるオムニバス形式の連続国際セミナー「死と文学」（全3回）を開催する。

従来は一国民または一言語の文学がそれだけで単独に研究教育されていたのに対し、比較文学のアプローチでは、他国民または他言語の文学との影響関係などが動的に究明される。本企画の目標は、複数の文学系教室が共同し、異なる地域から招聘される多彩な研究者の連続講演によって、学生がより視野の広い国際文化理解の能力を向上することである。また、通訳を介して英語ないしフランス語で実施される国際セミナーに参加すること自体、学生にとっては外国語の貴重な学習経験となる。

6 事後評価の総合評定

2. 9 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った5段階評価（5～1）の平均点

7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 国際協定をより深化させる取組であり、交換留学生の参加もあり、意義ある事業であったことが伺える。
- 参加学生に、セミナー原稿を事前に学習させるなどアクティブラーニングの要素を取り入れている点は評価できる。
- 学生が国際理解を本当に深めているのか、具体的評価を今後示す必要がある。